

自 分 に 勝 つ

秋田県

秋水館鎌田道場

小学6年 三 浦 帆乃夏

「面あり!!」「勝負あり。」自分に旗が上がると興奮して、とても嬉しい気持ちになる。

私が剣道を始めたのは、まだ幼稚園に通っていた頃、父と一緒に二人の兄の練習を見に行っただのがきっかけだ。兄の竹刀をおもちゃのように振り下ろし「重いのにすごいね。」「力持ちだね。」と周りに言われ、はずかしくもあり嬉しかった事を覚えている。それから自然に私も、剣道の道に進んだ。稽古で教わる事は何もかもが楽しく、二時間の練習もあっという間だった。

数カ月後、初めての試合の日をむかえた。道場とは違い、たくさんの人。ドキドキしながら開始線へ向かう。「始め!!」と審判の声で勢いよく、大きな相手に立ち向かった。

しかし、自分の竹刀はなかなか相手にとどかない。たった二分の試合だったが、一分ほどで疲れてしまい、竹刀をおろして泣いてしまった。もちろん結果は二本負け。試合が終わり父・母の元に行くと、「すごいね。がんばったね。」とほめてくれた。興奮した私は、母に「帆乃夏、次も試合するの?。」と聞くと、母は少し困った顔で、「今日は負けちゃったからもう試合は無いよ。」と言われ、私はまた泣いてしまった。もっともっと試合がしたい。試合で勝ちたい。という思いが強くなり、私はまた、熱心に稽古に励んだ。

月日が経つうちに自分自身に少しずつ力がついてきたことが何となく分かってきた。しかし、周りもだんだんと強くなり始めていた。私は、あせりを感じ自分が勝てないことでふてくされたり、イライラすることがたびたびあった。剣道なんか楽しくない。剣道をやめたい。という思いが次第に、強くなっていった。「こんなに練習しているのに、なんで勝つことができないのだろう。」と、あせる気持ちでいっぱいだった。道場では、館長先生に「人の言うことを聞かない。」「すぐにふてくされる。」と言われ、父には練習や試合で泣いてしまうたびに「泣いていたって強くならない。」「だから弱いんだ。」と言われることが多くなり、ますます剣道が嫌いになっていった。「素直になれ。」「ふてくされるな。」「泣くな。」と言われるたび、頭では分かっているはずなのに自分の気持ちをおさえることが出来ず何度も同じ事をくり返し、そのたびに叱られていた。

秋水館では、剣道ノートという物がある。自分の悩んでいる事、分からない事、気付いた事などを書き、毎回、館長先生に提出するノートの事だ。私はこのノートが大嫌いだった。毎回出すのが面倒だったからだ。初めはほんの二・三行しか書く事が出来なかった。でも、館長先生は、たった二・三行のノートにきれいな字でたくさんの返事を書いてくれた。ノートを出さず叱られる事もあったけど今は、毎回出す事が出来ている。先生からの返事を改めて読んでみると、素直になれ。ふてくされるな。と、何度も何度も書かれていた。この時から私は、ふてくされで泣き虫の自分を見つめ直し、素直な気持ちで剣道に励んだ。先生に言われた事は素直に聞く事で出来なかった事が出来るようになり、同時に自分の剣道に自信がついてきた。

四年生の冬、私の道場では門下生による立ち切り試合が行われた。選ばれた二人のもと立ちに

対して残りの人たちが順番に試合をしていく。三十二分間休む事が出来ず、もと立ちは、すごく大変だ。しかし私は、このもと立ちをどうしてもやりたかった。自分の思い通りに行かなければふてくされ、すぐに泣いてしまうような弱い自分を変えたかったからだ。そして私は、三十二分の試合を立ち切る事が出来た。「やったあ。」今までの弱い自分に勝つ事が出来た瞬間だ！！

ふてくされない自分、泣いてばかりの自分に勝ってこそ剣道は強くなれるに違いない。

私は、これからも自分に勝つ！！